

(別紙4(2))

事業所名 チアフル音明かり

## 目標達成計画

作成日: 平成 29年 8月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1, 18	全利用者高齢に伴う筋力低下により、前傾姿勢・ふらつき・すり足で不安定な歩行で転倒リスク高い。・事故防止優先になり過剰な声掛けも増えている。	・自由を奪わず安全に過ごす。	①スピーチロック掛けない。 ②リハビリ体操やラジオ体操継続する。 ③残存機能を見極め、基本理念に沿った支援行う。	12ヶ月
2	13	ミーティングや申し送りで決められた事が守られず、職員間で口論になる場面増えている。	・効率良く業務を行う。	①備蓄の補充(洗剤・米・リハビリパンツ・パット)等、半分になったら補充する。 ②申し送りは的確に伝える。 ③自分の行動に責任を持つ。	6ヶ月
3	33	重度化・終末期のケアに不安を持っている。・特に一人になる夜間帯。	・利用者・家族の要望に応える。	①専門職としての自覚と自信を持つ。 ②体験回数増やし不安克服する。 ③チームで取り組む。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

## 目標達成計画

作成日: 平成29年8月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	利用者により良いケアを行うには家族との密な関わりが重要である。職員は受け身であり、関わる事に消極的である。	家族の思い、または職員の思い、今後、利用者にどのように暮らしてほしいのか、どのような関わりをしていきたいのかを互いに情報共有を行いながら、本音で意見や要望が伝え合える関係になりたい。	・面会時に業務的な挨拶や近況報告だけの関係で終わらせるのではなく、家族の体調面や精神面にも配慮しながら、ほんの些細なこともお伝えする。双方がしっかりと家族や職員の気持ち、または考えている事の情報共有できる関係を築く。時には気楽にお茶を飲みながら、世間話をし家族の悩みや要望を聴ける環境を提供をしていきたい。	12ヶ月
2	21	利用者それぞれ認知症の進行状態が違い、利用者同士が上手く関わりが持てず、時には折り合いが悪く、孤立してしまう利用者がある。職員が仲介に入る等の支援が必要である。	職員が仲介に入る事により、いじめや悪口または孤立しない環境にする。	・利用者も認知症を持つひとりの人であり、性格や育ってきた環境なども違う。折り合いの悪い人がいてもおかしい事ではなく職員がそれぞれの利用者をきちんと知る事が重要である。行事の参加時や日常的な生活面での席の配置に気を配る。すぐに仲介ができるように職員の配置も行う。また、折り合いの悪さを理由に全て関わりを避ける支援ではなく、時にはユニットの色である、生活レクを利用して協力して行い関係を築く支援も行う。	12ヶ月
3	38	職員の決まり事や都合が優先され、利用者中心のケアになっていない。	一人一人の希望やペースにあった暮らしをして頂く	・現在の勤務状況が職員不足である。日々の業務に追われているのが正直なところであり、職員側の都合で物事を進めるのではなく、可能な限り利用者に職員が合わせていく。無理強いすることなく利用者の意思の尊重をする。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。